

アブ・ガサバ農場のその後

山田 幸

2009年4月に訪問した際には、アブ・ガサバ農場は放棄された状態であったが、その後、パキスタンの民間企業（クラウン・カンパニー）の投資が入ることとなった。農場ごと借り上げたクラウンカンパニーは、バスマティ種（水稻）の栽培を開始すべく準備していた。また、1時間当たり50トンの処理が可能な大型の精米機をすでに導入しており、初めから商業スケールでの生産をめざしているようだ。

訪問時はパキスタン人が働いていた。パキスタンは一昨年の洪水で相当の農地を失ったため、民間企業として海外に投資すること。

また、以前は、アブ・ガサバ農場は、ハルツームから行く際に白ナイル川の対岸にあったため、川を渡るためにフェリーを利用する必要があり、時間がかかり、開発が遅れる原因ともなっていた。中国の商業ローンにより、橋がかかり、時間が大幅に短縮された。



以上